

第 3 回策定委員会の振り返り

NO	項 目	主要意見
1	空き巣の発生と防犯対策	○ 住み続けたい理由として「治安が良い」といった意見があるが、空き巣が発生している。 ○ 「治安が良い」という評価が崩れつつあり、防犯対策がいる。
2	交通機関の利便性に係る周知	○ 「通勤先・通学先に遠く不便である」といった意見は不便さに焦点が当たりやすいが、金剛駅は特急が停まるなど利便性が高い。 ○ 公共交通について知らない人が多いのではないか。交通機関や利便性の周知が必要ではないか。
3	市全体における狭山ニュータウンの関係性や位置づけ	○ 指針案は、大阪狭山市全体に当てはまる内容に止まっているのではないか。 ○ 市全体における狭山ニュータウンの関係性、位置づけなどをはっきりさせた方が分かりやすい。
4	耕作放棄地や住宅開発について全市的な対策	○ 周辺地域の耕作放棄地や住宅開発について、全市的な対策が必要になる。農家はできれば継続したいが困難な状況があり、支援が求められている。
6	オールドタウンの共通問題と計画の特色づけ	○ 50 年を経た団地の共通問題が発生しているが、その上で指針のどこに特色を持たせるかが問われている。 ○ 50 年の歴史を基にして、現状と課題が語られる必要がある。狭山ニュータウンの暮らしの姿を加えることで、指針が住民にとって自分事になるのではないか。これまでに培われた狭山ニュータウンらしい暮らしづくりが表現できるとよい。
7	自分事にできる指針	○ 人が育つまちであったことが狭山ニュータウンの魅力であり、これまでの歴史をもとにして、新しい物語をつくりたい。 ○ 若い女性は、小商いやマルシェなどの輪を広げている。次の子育て世代の活躍につながるように、自分事にできる指針としたい。豊かな交流をどうつくっていくかが大切な視点である。
8	指針は方向だけを示して行政の縦割りを超えたモデルに	○ 細かいことを決めてしまうと、それに縛られるので、指針は方向だけを示すことがよい。都市計画、教育、福祉などの行政の縦割りを超えた取組みモデルとなることをめざしたい。 ○ 目標と取組みに加えて、推進体制の骨子が必要ではないか。
9	取組の優先順位や実施主体を示す	○ 指針のタイムスパンは、平成 35 年の近大病院移転に向けて考えるべきではないか。同時期に帝塚山学院大学も移転する。取組を実現していくために、3 年、5 年、10 年などの時間軸を入れてはどうか。 ○ 市民が自ら関わっていけるように、取組みについて優先順位の整理がいる。人ごとにならないように、市民、事業者、行政など、誰がするのかについても書いてはどうか。 ○ 子育て層や若い世代の呼び込みが大切である。近居支援、空き家バンク、引越支援など、市が行うべき施策がある。